

第72回

滋賀県教育美術展

～子どもの学び展～

会期：令和8年1月28日（水）～2月11日（水）

開館時間：午前9時30分～午後5時

※入館は午後4時30分

休館日：2月2日（月）・2月9日（月）

展覧会場：栗東歴史民俗博物館



主催 滋賀県美術教育研究会 後援 滋賀県教育委員会

【もくじ】

P 1	・・・平面作品の特選作品の展示のイメージ
P 2	・・・今年度の滋賀県美術教育研究会研究テーマ・募集作品
P 3	・・・審査方針
P 4 ～P 6	・・・平面作品の応募について
P 7 ～P 8	・・・立体作品の応募について
P 9	・・・平面・立体作品の応募についての注意事項
P 1 0	・・・令和 6 年度審査講評

第72回滋賀県教育美術展

作品募集要項

～子どもの学び展～

【平面作品の特選作品の展示のイメージ】



「子どもの学び紹介」カードの例

次の①～③を記入してください。

① 題材の概要

② 子どものこだわり。力を入れたところ。

① 平面 or 立体の部	学校園名 滋賀大学教育学部附属小学校	学年（年齢）1 年生	氏名 〇〇 〇〇〇
指導者 〇〇 〇〇〇	題材名 いろいろバスから〇〇が降りてきた	タイトル 天気さんがいっぱいバス	
道具・材料など 画用紙、ペン、色鉛筆、クレヨン	【子どもの学び】絵本『いろいろバス』をもとに、「何がバスから降りてきたら楽しいか」を想像しました。クラスみんなでいろいろなアイデアを出し合う中で、自分らしいバスのイメージをどんどん膨らませていきました。自分の描きたいバスのイメージは力強い感じにしたかったので、クレヨンを何度も重ねて色を濃くして迫力のある絵にしました。友達の作品を紹介してもらって、色々な楽しいバスができることを学びました。		

③ この子どもが気付いたこと。学んだこと。

特選作品に選ばれた場合、ご指導された先生に作成いただきます。趣旨に賛同いただける場合のみご応募ください。「子どもの学び紹介」カードの記入にご協力いただける先生のみご応募ください。詳しい書き方はP5、6をご覧ください。

【本展覧会の趣旨】

滋賀県内の保育園・幼稚園・子ども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における美術教育の振興を図るため、滋賀県教育美術展を開催します。幼児・児童・生徒が生き生きと表現し、自分の思いを素直に表している作品を一堂に集めることにより、子どもの良さを評価するとともに、教員の指導力向上の研修の場となるよう、本展覧会を実施いたします。

今年度の教育美術展のポイント

①子どもの良さを評価

- ・子ども一人ひとりののびのびとした表現そのものを評価します。
- ・技巧を凝らし長時間かけた作品だけでなく、短い時間で生まれた素朴な作品も積極的にご応募ください。

②教員の指導力向上の場

- ・特選作品に選ばれた場合、指導された先生には「子どもの学び紹介カード」を作成いただきます。ご了承の上でご応募ください。
- ・「子どもの学び紹介」カードを通して、子どもの表現の良さや、指導上の工夫などについて研修できるようにします。

【今年度の滋賀県美術教育研究会 研究テーマ】

- ・楽しく夢中になる「学びの場」の創造

子どもたちが表現・思考の過程で、楽しく夢中になる保育・授業をめざしてください！

【募集作品】（出品に際してご確認ください）

4・5歳	・体験や経験から感じた思いが表れた作品。 ・子どもが自ら描きたい思いがのびのびと表れている作品。 ・幼児なりの楽しみや願い、思いを大切にして満足して表現した作品。 ・日常生活の中で生まれた素朴な表現（線表現含む）。
低学年	・材料や活動に夢中になった様子が表れている作品。 ・生活や体験、経験から感じた思いが表れた作品。
中学年	・自分なりの工夫が表れ、どんどん試している作品。また、発想が広がってつくりこむなどして、自分の伝えたいことが表れた作品。
高学年	・どのように表したいか自分の意図に合わせた表現方法を見つけたり、追求したりしている作品。
中学校	・自分が伝えたい思いを表現しようとし、自分の見方や感じ方を大切にしながら表している作品。
特別支援 学級・学校	・子どもの個々の発達段階や個性に合った伸び伸びとした作品、繰り返しやつくりこみを楽しんだ作品など、多様な作品。

※発達段階に合った無理のない材料や用具を扱うことで、伸び伸びとした表現が期待できます。

【審査方針】

- ① 作品の技術的な完成度よりも、子どもらしい自由な発想を大切に、「楽しんで描いた・つくった」ことが伝わる作品を評価します。



(令和6年度 特選作品)

- ② 子どもたち自身の思考や発想の跡が伝わる作品を評価します。型に当てはめたやり方や教師の指示に従うのではなく、子どもたちが自ら考え、感じたことを、自分らしい表現方法で形にする喜びを味わえるように指導してください。

- ③ 子どもたちの発達段階や、子どもたちの実態に合わせて、適した材料・用具を使い、指導が行われているものを評価します。小・中学校については、教科書に掲載されているような題材から指導に生かした作品も評価します。

【参考】

- ・ 保幼は保育指針解説、幼稚園教育要領解説に発達段階について書かれています。
- ・ 小・中学校は、教科書や学習指導要領解説編に、学年の発達段階に適した材料や用具についてわかりやすく書かれています。

- ④ 遊びから生まれた作品、短時間でつくった軽やかな作品からも、その子らしい個性や感性を感じられる作品を評価します。
- ⑤ 「感じたこと、想像したこと、見たこと（生活経験や体験）」から表したり、材料から思いついて表したりした様々な作品から選出します。

滋賀県美術教育研究会「第72回滋賀県教育美術展 平面作品審査会」

【日時】 令和7年12月25日（木） 【会場】 滋賀大学教育学部附属小学校体育館

【日程】 9：00～15：00 審査・事務処理その他（予定）

※滋賀県美術教育研究会に所属しておられない先生方でも「審査補助員」として多くの先生方にご参加いただいております。参加されたい場合は、各郡市の担当の先生にご相談ください。

※平面作品の搬入については、各郡市にて設定されています。詳しい期間や場所については、決定しましたら美育会ホームページ「しがびいく」に掲載します。

【平面作品の応募について】

応募の対象 保育園・幼稚園・こども園児（4歳・5歳児）・小学校児童・中学校生徒

高等学校生徒・義務教育学校児童生徒・特別支援学校児童生徒

1 応募規定（審査は滋賀大学教育学部附属小学校体育館で行います）

① 出品点数について

- ・1学年ごとに児童・生徒数の10%以内まで出品できます。

<小数以下切り上げ（例）33名×0.10=3.3名→4点>

- ・校種別・学年別に入選・特選作品を選出します。
- ・特別支援学級については、特別支援学級在籍児童・生徒の10%以内です。ただし、5人以下の場合は1人出品可能とします。

② 題材・・・自由

③ 表現種別・・・絵画・デザイン・版表現・線表現（造形遊び、スケッチ）等の様々な表現

※展示する関係上、素材の貼り付けや四つ切り画用紙からはみ出している作品は不可

④ 大きさ・・・四つ切り画用紙（小作品は四つ切り画用紙等に貼付）

※ただし、高等学校の作品は特に制限しません。

※特別支援学級、特別支援学校作品は、出品票の学年欄に黒字で「T 及び該当学年」を必ず記入してください。〈例5年生の場合 T 5〉

2 応募方法・応募期間・場所

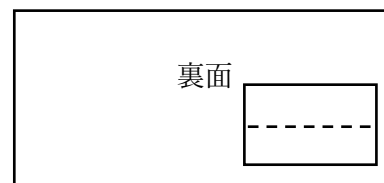
① 出品票

- ・美育会ホームページ「しがびいく」にて所定の様式をダウンロードいただき、出品票に必要事項を記入の上、作品の裏面右下に貼付。

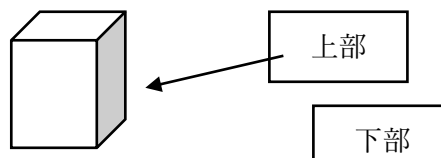
印刷NO. 1										第72回滋賀県教育美術展出品票									
個人番号	00	2	01	01	01	小学校	の部												
都市名				校名	滋賀大学教育学部附属小学校														
題材名	いろいろバスから〇〇が降りてきた					種別	絵画												
タイトル	天気さんがいっぱいバス																		
学年	01年		氏名	美育 かい															
指導者名	滋賀 けん			都市番号	00														
*個人番号は、平面作品のみご記入ください。																			

第72回県教美展 特選確認票										
個人番号	00	2	01	01	01	小学校	の部			
都市名				校名	滋賀大学教育学部附属小学校					
題材名	いろいろバスから〇〇が降りてきた									
タイトル	天気さんがいっぱいバス									
学年	01年		氏名	美育 かい						

- ・平面作品は、上部のみのりで貼ります。下部はのり付けせず、特選に選ばれた場合に切り取って使用します。（裏に貼付）



- ・立体作品は、上部のみ切り取って使用します。台等の裏に貼付します。



② 出品目録

- ・ 美育会ホームページ「しがびいく」にて所定の様式をダウンロードいただき、必ず別紙の県教美展出品目録を両面刷り B4 サイズで、作品に添えて提出してください。（2枚以上になる場合、必ず左上をホチキス止めしてください。）

- ・ 出品目録は郡市ですべてとりまとめて提出します。郡市の代表の先生にご確認ください。

※「作品個人番号」の記入漏れ防止のため、ホームページ「しがびいく」内の「県教美関係」から Excel の記入シートにデータを入力後、出品票と出品目録の差し込み印刷をすることができます。ぜひご活用ください。手書きで出品票や出品目録を記入する場合、「作品個人番号が無いもの」「所定の出品票以外のものを使用しているもの」は審査の対象外となります。

③ 搬入方法・搬入場所

- ・ 各郡市にて設定されています。詳しい期間や場所については、決定しましたら美育会ホームページ「しがびいく」に掲載しますので、必ずご確認ください。なお、各郡市への郵送や業者による搬入および、審査会場への個人の直接の持ち込みは、一切受け付けません。

3 審査

- ・ 平面作品の審査員は滋賀県美術教育研究会会長が委嘱します。
- ・ 平面作品は、校種別・学年別に審査します。
- ・ 審査結果について、作品個人番号をホームページ「しがびいく」に掲載します。また、審査結果については、「作品個人番号」で処理しています。
- ・ 特選作品に選ばれた場合、指導された先生には「子どもの学び紹介」カードの記入にご協力いただきます。その際、①題材の概要②子どものこだわり、力を入れたところ③子どもが気付いたこと、学んだことを記入していただきます。ご理解のいただける先生のみご応募ください。

4 「子どもの学び紹介」カードについて

- ・ 美育会ホームページ「しがびいく」にて所定の様式をダウンロードください。
- ・ 栗東歴史民俗博物館での特選作品展示の際、作品の解説カードを併せて展示します。
各郡市での立体審査会および附属小学校での平面審査会で選ばれた特選作品に指定の様式でご記入いただき、各郡市で平面と立体の「子どもの学び紹介」カードを印刷して、栗東歴史民俗博物館での搬入日（1月27日）に立体作品と一緒に郡市でとりまとめてご持参ください。

【注意事項】

- ・ 2ページ目以降のフォント、フォントサイズ、行数は変更しないでください。白黒で印刷してください。また、差し替えがあった場合に迅速に対応できるように、それぞれの学校園でお使いの普通用紙に印刷してください。
- ・ 搬入前に各郡市で必ず内容・印刷サイズについてご確認ください。
- ・ 立体の特選作品が決定次第、作成・印刷が可能です。当日までに立体作品や作品を置く台紙に貼り付けて搬入することも可能です。搬入の仕方については郡市でそれぞれご確認ください。

「子どもの学び紹介」カードの例

次の①～③を記入してください。

① 題材の概要	② 子どものこだわり。力を入れたところ。
平面 or 立体の部	学校園名 滋賀大学教育学部附属小学校
学年 (年齢) 1 年生	氏名 〇〇 〇〇〇
指導者 〇〇 〇〇〇	題材名 いろいろバスから〇〇が降りてきた
タイトル 天気さんがいっぱいバス	
道具・材料など 画用紙、ペン、色鉛筆、クレヨン	【子どもの学び】絵本『いろいろバス』をもとに、「何がバスから降りてきたら楽しいか」を想像しました。クラス のみんなでいろいろなアイディアを出し合う中で、自分らしいバスのイメージをどんどん膨らませていきました。自 分の描きたいバスのイメージは力強い感じにしたかったので、クレヨンを何度も重ねて色を濃くして迫力のある絵に しました。友達の作品を紹介してもらって、色々な楽しいバスができることを学びました。
	③ この子どもが気付いたこと。学んだこと。

5 平面作品の返却について

- ・ 入選及び選外作品は、審査会終了後に各郡市に返却します。
 - ・ 特選に選ばれた平面作品は美術教育研究・研修に活用したのち、写真撮影後、翌年度の審査会にて各郡市に返却します。例えば、HP「しがびいく」に作品の写真等を掲載する場合があります。
- 従いまして、県内の美術教育活動のために、主催者が受賞作品（特選）の情報を使用する権利を有し、出品者はこれを許諾するものとします。

【立体作品の応募について】

応募の対象 保育園・幼稚園・こども園児（４歳・５歳児）・小学校児童・中学校生徒
 高等学校生徒・義務教育学校児童生徒・特別支援学校児童生徒

1 応募規定（審査は、郡市ごとに行います）

① 作品種別と点数について

各郡市特選者数

保育園・幼稚園・こども園	各 1 点
小学校 1・2 年	
小学校 3・4 年	
小学校 5・6 年	
中学校	
特別支援学級	

各郡市入選者数(各学年の入選数)

大津市	10 点
彦根市・草津市・東近江市・長浜市	8 点
甲賀市・栗東市・守山市	5 点
その他の郡市	3 点

- ・特選作品の合計数は 6 点以内です。（該当の作品がなければこれ以下でも可。）
- ・この 6 点は全て特選となり展示します。
- ・この他に郡市入選（郡市保管・氏名のみ報告）を設けます。
 ※高等学校・特別支援学校の特選はそれぞれ 2 点ずつ選出します。
 ※展示の都合上共同作品は認めません。

② 題材・・・自由

③ 大きさ・・・自由

※特選作品は、県教育美術展に展示します。保存・運搬・展示に適した壊れにくい作品を出品・審査してください。また、破損した時など出品された学校の先生方に、現地まできていただき修理していただく場合がございます。

2 応募方法・応募期間・場所

① 出品票 （作品個人番号は空欄をお願いします）

- ・台等の裏に貼付します。

※平面の出品票の内容に詳しく記載しております。

※所定の出品票以外のものを使用してある場合は、審査の対象外です。

② 出品目録

- ・各郡市にて設定されています。

② 搬入方法・搬入場所

- ・各郡市にて設定されています。郡市の代表の方に確認してください。
- ・立体作品で作品と台が二つに分かれる場合は、両方に校名・学年・氏名を記入してください。

3 審査

- ・立体審査については各郡市の審査要項により決定します。
- ・特選者は名簿によって各支部を通じて学校に通知します。
- ・「子ども学び紹介」カードについては、詳しくは、P5、6をご覧ください。

4 立体特選作品の搬入・搬出について

- ・各郡市でそれぞれ搬入・搬出してください。

搬入：令和8年1月27日（火）午後2時～

搬出：令和8年2月12日（木）午後2時～

場所：栗東歴史民俗博物館

【平面・立体作品の応募についての注意事項】

1 出品に関わって

- ・他で表彰を受けた作品は応募できません。
- ・滋賀県教育美術展に出品される作品は、必ず出品前に写真等の記録に残してください。
- ・平面・立体作品を合わせて、一人一点の出品に限りです。
- ・本展覧会の趣旨をご理解いただき、年齢・学年に望ましい作品の出品をお願いします。
- ・展示する関係上、平面作品では素材の貼り付けや四つ切り画用紙からはみ出している作品は不可。
- ・立体作品では、保存・運搬・展示に適した壊れにくい作品を出品・審査してください。
- ・特選作品に選ばれた場合、ご指導された先生に作成いただきます。趣旨に賛同いただける場合のみご応募ください。「子どもの学び紹介」カードの記入にご協力いただける先生のみご応募ください。
- ・他の著作物を侵害する可能性のある作品については、出品することができません。

2 平面・立体の搬入・搬出について

- ・郡市ごとに平面と立体の「子どもの学び紹介」カードを印刷し、栗東歴史民俗博物館への搬入日に立体作品と一緒に持参する。(郡市ごとに印刷の方法や集約の仕方については設定されています。)
- ・搬入・搬出担当の先生方には、展示作業・撤収作業がすべて終了するまでご協力いただきます。

3 賞状について

- ・特選・入選作品に賞状を贈ります。ただし、予算の関係上、予備の賞状の数が限られております。破損や誤字などお気を付けください。新しい賞状が必要な場合は、郡市の代表の先生にご連絡ください。

4 特選に選ばれたお子様・保護者様への連絡

- ・本紙の1枚目をポスターとして印刷してお渡しください。また、特選に選ばれた平面作品は、翌年度の審査会にて各郡市に返却されることをお伝えください。

5 お問い合わせ先

滋賀大学教育学部附属小学校内 美育会事務局

担当者 小橋、木村、塚本 (Tel 077-527-5251)

事務局長 附属中学校 西田 (Tel 077-527-5255)

※保護者の方からの直接の問い合わせには一切応じられません。必ず学校園を通してお電話ください。

■令和6年度(2024 年度)

第 71 回滋賀県教育美術展の審査評

第 71 回滋賀県美術展の審査会が、令和 6 年 12 月 24 日(火) 滋賀大学教育学部附属小学校において行われました。

今回の教育美術展には、どのような傾向の作品が集まったのでしょうか。審査会に参加された先生方に展覧会の見どころや、作品の見方についてうかがいました。(順不同・敬称略)

■4歳児

【審査:小野、山川、堀口】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

・幼児が経験したことをお気に入りの色の線を使って思うままに描かれていました。これは、4歳児の発達段階を理解した題材であること、園内選出の段階で幼児の表現を理解されていることが伺えます。また、教師の考える表現を押し付けるのではなく、紙の余白にも幼児に思いがあることを理解された作品が見られました。

2) 気になったこと

・例えば、大きなものを絵の具で表現した後に、ペンやパスで書き込んでいく集中型の作品や描き方の工程を教師が示した作品が多くみられました。幼児が体験したことを伸び伸びと描ける題材や道具、絵の具と画用紙の色など教材研究を重ねることで、幼児の表現が変化してくると思います。

3) これから期待すること

・4歳児は表現方法の発達過程の幅が広い時期でもあります。指導者は上手く絵を描かせる技術を高めたり、作品の見た目の形に拘ったりするのではなく、幼児が「描きたい。」思いが表れているもの、描き終えた後に「これはね…」と伝えたい思いが溢れている作品を選ぶ目を養っていくこと、この時期にしかできない表現を伸び伸びと線で描く機会があることを期待しています。

い。■5歳児

【審査:小野、木村、中川】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

・描きたいことを自分のお気に入りの色を使って、線を中心に描ききっているところがよかった。

2) 気になったこと

4, 5歳になると、中心になるものを大きく描いて、周りに小

さな人やものを描いていく描法のものが多い傾向になるが、今回はレントゲン図法、展開図法など、子どものこの時期ならではの表現になっているものを選出した。

3)これから期待すること

・子どもの表現が集中画法(中心に大きなものを描いて、周りに小さなものを描く)ばかりではないということを指導者が意識して、子どもの表したいことが表したい方法で描けるような教育・保育を今後も展開されることを期待する。

■小学校1年生

【審査:松波、外村、村瀬】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

・子どもたちが表現活動に楽しんで取り組んだであろうという作品が多く見られました。学校生活の中で体験したこと、感動したこと、楽しんだことなどをのびのびと表現したものがありません。手や指、体を大きく動かしながら描いたであろう線。思いを詰め込み塗り込んだ色。見つけ出した自分だけの形。図画工作科の時間が楽しく、夢中で取り組んでいるような姿が絵から伝わってくるような題材がよかったです。

2) 気になったこと

・そうした活動をしてきたであろう1年生の姿に気になったことが2点あります。一つ目は、その活動に子どもたちが真剣に楽しんで取り組んでいたのか。二つ目は、その題材のねらいは何であったのかに分かりにくいといったことです。

まず、一つ目についてですが表現活動が作業的、技術指導的なものに偏ってしまっているものがありました。あるものの形を印刷した紙に色を塗ったもの。写真を模写したようなもの。確かに形を捉えたり、色を使い分けて塗ったりする技能的な指導には役立つかもしれませんが、生活体験をのびのびと表現してほしい1年生の段階では、そうした支援は別の時間に取り組まれてはどうでしょうか。

二つ目は、一つの題材に複数の技法が含まれていたり、高学年や以前に賞を受賞した作品を真似たりしたような作品がありました。よい作品を真似て学ぶことも大切だと思います。しかし、その題材を選んだ先生の意図はなんであったのか。そこにねらいはあったのか。また、子どもはそれを描きたかったのか。楽しんで表現活動に取り組めることが図画工作科の一步だと思います。

3)これから期待すること

・子どもたちは様々な情報の中で生きています。今は、タブレットを開けばすぐに画像が検索でき、写真を撮ればいつでも記録することができます。そうした中で、子どもたちに

は絵や立体に表現することのよさや絵や立体でしか表現できない自分の思いを大切にしてほしいと願います。同じ体験をしても、同じものを見ていても、その感じ方はそれぞれ違います。1年生ではとくに学校に入学して、はじめてのことばかりです。そうした中で、自分だけが見つけたこと、感じたこと、楽しんだことを表現していくことは、これからの学校生活の中で重要なことだと思います。ぜひ、子どもたちと一緒に先生方も楽しめる題材や材料との出会いを楽しみにしております。

■小学校2年生

【審査：山崎ま、野中、杉本、山崎、高岡】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

- ・線や色がきれいな作品が多かった。与えられた課題を子ども達自身で広げている姿が見られる作品が多かった。たくさんの書き込みがあるものが多かった。お話の絵や空想画が多く、生活画が少なかった。

- ・好きなものや興味のあるものを楽しんで書いている姿が感じられた。

- ・様々な画材や技法が見られて、先生方が日々勉強して取り入れているなど思った。

- ・背景を塗っていなかったり、絵を書き込みすぎでいなかったりする作品が多く見られた。余白が美しい作品が増えてきた。

2) 気になったこと

- ・スクラッチ、吹き流し、卵の作品がたくさんあった。過去に特選になった作品があったからだと思われる。

- ・お話の絵や空想画が多く、生活画が少なかった。子ども達が体験したことを記憶が新鮮なうちに絵で日記を残すような感覚で残しておくといふ。

- ・画用紙からはみ出している作品も多く見られた。応募の規定は守る必要がある。

- ・高学年や中学年で特選になっている作品を模したものがたくさんあったが、2年生という発達段階を考えて題材や技法を選んでもらいたい。

3) これから期待すること

- ・画用紙からはみ出している作品も多く見られたため応募の規定は守る必要がある。

- ・技法について教材研究をされている成果が見られたので、これからも様々な技法を試しつつ、そのクラスの発達段階にあったものを取り組んでいく必要がある。

- ・小学校低学年のうちにクレパスの塗り込みを経験させておきたい。自分の描きたいものをしっかり塗り込んだり、意

味のあるものへの塗り込みをしたりして作業的にならないようにしていくべきである。

- ・絵の具を使いすぎず、補助的に絵の具を使ったり、インク替わりに使ったりしていくといふ。

- ・1単元に長時間かかるものでなく、いつも新鮮な気持ちで図工の時間に取り組めるようにしていきたい。

- ・高学年や中学年で特選になっている作品を模したものがたくさんあったが、2年生という発達段階を考えて題材や技法を選んでもらいたい。

■小学校3年生

【審査：安本、音羽、福山、松本】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

- ・水彩絵の具を使って、濃淡や明暗を表現するなど、色づかいの美しい作品が多く見られました。

- ・感じたことや想像したことから表したいことを見付け、一番描きたいものを中心に、その周りまで思いを込めて描き込めていました。

2) 気になったこと

- ・別の紙に描いたものを切り貼りしている作品が見られ、子どもが描いた線のよさが失われていると感じました。また、貼る活動をすることで、教師が絵を描く工程を決めすぎている作品が見られました。

- ・黄ボール紙を使った作品が多く見られましたが、題材に適した紙を選択できているのか気になりました。

3) これから期待すること

- ・3年生は水彩絵の具と本格的に出会う学年です。筆の使い方や水の量、混色などを丁寧に指導するとともに、子どもが水彩絵の具で描くよさを感じられるような題材を工夫ほしいです。

- ・子どもの「この場面を描きたい」「こんな表現をしたい」という思いを引き出せるよう、子どもと教師の対話を大切にしていきたいです。

■小学校4年生

【審査：上野、成田、塚本、早川】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

- ・絵の具を使っての描き方に慣れてきた4年生ですが、色を混ぜて混色や色を重ねての重色をしている作品が見られた。

- ・線描や切り絵、版画、絵画など幅広い題材があった。

- ・紙の素材を絵に合わせて取り入れることができていた。

- ・色の選択で、一色だけで塗り終わらずに少し色を変えて塗っている作品もあり、よかった。

2) 気になったこと

- ・四つ切りサイズの画用紙からはみ出た作品が何点か見られた。
- ・台紙の紙の色を作品に合わせて選択する。(台紙が目立たないようにするなど)
- ・紙粘土がくっつけてあった。
- ・スクラッチで塗る量が多く、子どもたちの負担になっていないか心配。
- ・へちまなど、どの子も同じポーズをしていて、教師が指導しすぎていたり、指導の仕方が順番通りになっていたりして気になった。

3) これから期待すること

- ・スケッチで靴を選択していたが、スケッチの対象物は、自分の思い出があるものや、印象に残ったものなど、子どもたちが選択できるとよい。

■小学校5年生

【審査：上原】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

- ・色合いがきれいな作品が多かった。
- ・着色が丁寧であったり、色の組み合わせに工夫が見られたりした。
- ・作業が丁寧だった。
- ・教科書教材をもとに取り組まれていることが、児童の発達段階や実態に即したものとなっていた。
- ・名前をモチーフにした作品では、教科書をベースにしなが、教材研究をされ素敵な作品を指導されていることに感心した。

2) 気になったこと

- ・写生会や風景画が少なかったので、本物を見る体験をしてもらいたい。
- ・また風景画であっても、写真を模写しているような作品が多く、モチーフに対する思い入れなどが感じにくかった。風景画で定規を使用している作品が見られ、生き生きとした線となりにくかった。
- ・一つの紙面にいくつもの技法があったり、別の紙に描いた作品を貼ったりしていた作品があり、教師のやらせたいが先走りしていた。

3) これから期待すること

- ・滋賀県が大切にしている線描をさらに進め、実際の場所に行き、本物を見て、感じたままを描く活動を仕組んでほしい。
- ・水彩絵の具の使用は、高学年になっても重色や混色を

含めて指導していきたい。絵の具の着色についても線を大切に塗る方を指導するだけでより見栄えのする作品もいくつか見られた。

■小学校6年生

【審査：辰巳、中川、塚本、平井】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

- ・思い出の場所や大切にしてきた物などを題材が多く、6年生に適していた。
- ・思い出の場所を描いている写生では、6年生らしい重色や混色が美しい作品が見られた。さらに、色の濃淡や筆使いにも工夫が見られた。
- ・台紙は、白や紺、無彩色などの方が、作品をより美しく見せていた。

2) 気になったこと

- ・名前をデザインして描く題材では、どこに思いを込めて描けばよいのか子どもが迷っているように感じられたため、どんな追求の仕方をさせたいかを指導者が考える必要がある。
- ・4つ切りサイズが大きすぎる場合には、サイズを落として、描きたいことを描きこむことができるとよいと感じた。

3) これから期待すること

- ・今年の傾向として、お話の絵では「百羽のつる」、「やまなし」、「銀河鉄道の夜」が大半をしめており、見て描く絵では、一言メッセージが大きく書かれたランドセルの作品が多かったため、新たな題材の教材研究が求められる。

■中学校1年生

【審査：人見、大西、鈴木、横田、武村】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

- ・限られた授業時数の中で、試行錯誤を繰り返して制作した作品があり、見ごたえのある作品がそろった。中学1年生の作品としては、完成度の高い作品が多いと感じた。

2) 気になったこと

- ・感じたこと考えたことを表現する題材、目的や機能を表現する題材のプロセスを明確にして指導していけるとよい。

3) これから期待すること

- ・第1学年の間に、いろいろな題材を経験させることで2年生、3年生で表現の幅を広げられるよう時間を工夫して生徒に身に付けさせたい。

■中学校2年生

【審査：人見、峯島、丸橋、畑中】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

- ・限られた授業時数の中で、デザイン性の高い、自分の意

図することが伝わる作品が多く出品されていた。

2) 気になったこと

・パッケージデザインは、実際にパッケージになることを前提として制作できるよう心掛けたい。

3) これから期待すること

・作品の題材にあった表現方法・描画材料を、工夫して制作できるようにしていきたい。

■中学校3年生

【審査: 人見、林、西田、山本】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

・密度の高い作品が多かった。1年生から作品制作で積んだ経験を活かし、ポスター・絵画・染め・漫画・パソコンソフトを使ったものなどバラエティーに富んだ作品が多く出品されていてよかった。

2) 気になったこと

・特にありません。

3) これから期待すること

・制作のプロセスが見えるような美術の時間を大切にしていきたい。

4) その他

・中学校どの学年でも、応募規定に合致していない作品(八つ切り大など)が見られた。

また、出品票の向きが作品と合っていない、記入漏れがある、なども見られたので、気を付けてほしい。

■特別支援

【審査: 馬淵、辻】

1) 作品を見て、今年の傾向、よかったこと

・デザインや抽象画作品に色や形の美しさやよさを伝えようとしている作品が、数多く見られました。具象画作品については子どもが想像を働かせ、思いを込めて描かれた作品が数多く見られました。表現方法にも工夫が凝らされ、指導者の熱意が伝わるような題材・指導の工夫が数多く見られました。

2) 気になったこと

・子どもが独自の見方・感じ方を働かせ、子どもの思いから主題が生まれるような題材設定になっているのか、技法や表現様式が先行していないか、題材の設定の点で、気になる作品もありました。子どもが特有の見方・感じ方を働かせるような題材や指導・支援が求められます。

3) これから期待すること

・子どもが独自の見方・感じ方を基本にしながら、自分なりの見方・感じ方で主題を生み出し、試行錯誤から学んでい

くような、子どもの学びが描画技法以外の能力とつながりながら資質を高めていく題材設定と指導・支援が期待されます。